

茨城交流保育園ニュース 2020年 3月

大人のリズム学習会 ～関西園長・主任学習会からの学びを活かして～

<6月15日～16日> 関西園長・主任学習会に参加（茨城の代表3名）

<6月21日> 関西園長・主任学習会に参加しての報告会（茨城園長会にて）

<6月28日> 大人のリズム学習会（たんぽぽ保育園）

1 関西園長・主任学習会で学んだことの報告

(1)「メモはとらないで聴く」

昔は研修の時メモはとらなかった。10学んだうち、覚えているのは1、だから何回も学びに行くという話から、学ぶ姿勢の熱さを学んだ。

(2)「物事を見るときは、縦軸と横軸をしっかりとって」

縦軸とは歴史（地球の誕生、星の誕生、人類の誕生など・・・）横軸とは地域レベル・・・物事の本質を見る目を持てる、深い学びをしていかなければと感じた。

(3)「形だけを真似るリズムになっていないか」

ポイントはどこか、再度確認して丁寧に取り組む必要性を感じた。

2 リズム

【ロールマット 金魚 どんぐり（介助の仕方のみ） 両生這い マズルカ】

特にロールマットは、時間をかけて丁寧に行った。何度もやり直しをした方もいたが、「自分が動いてやってみることで、気持ちよさを実感することもできたし、子ども達への伝え方も変化した」との声も聞かれた。前に進むマズルカに驚きの表情を見せながらも、楽しそうに体を動かす姿が見られた。関西学習会で学んできた中の「土台のリズム」については、大人のリズム学習会で確認し合うことができた。更に、大人の感性を豊かにし、良い文化に触れる機会を持とうと、7月に「サント オブ ミュージック」の鑑賞会を計画した。今後も、リズムの視点や、保育者自信の人間性を深めるために学び合うことを大切にしていきたい。意識することが、以前よりよく理解できた」との感想もあり、6月26日（火）と7月25日（水）の19:00から、たんぽぽ保育園にて職員の学習会を行いました。

★1回目は、主に新人職員対象でしたので、以下の内容を、各保育園の園長・主任がそれぞれ担当しました。

1「リズムの大切さ」の話 2「歌」 3「ロールマット」 4「基本のリズム（うさぎ・金魚・どんぐり・両せいばい・アヒル）」

特に、「リズムの大切さ」の話は、＜律動＞や＜生物の進化＞など、リズムを根本から学ぶことができました。ロールマットは、まずは大人がやってもらって気持ちよさを味わい、子どもの体のどこを、どのように触れていくのがいいのか、体験しました。基本のリズムでは、介助の仕方を学び、7月3日の交流リズムの時に、学びを活かした介助をすることができました。

★2回目は、歌の先生を招いて表現指導をしていただきました。「黒坂黒太郎」作詞作曲の『世界中の友達に平和を』は、歌詞の意味の深さを知り、想いを込めながら歌いました。今後も、大人自身の感性が豊かになる研修を大切にしていきたいと思います。関西園長・主任学習会に参加し、宇山喜久子さん、森田幸子さんから、「齋藤公子先生から学んだこと、

土台のリズム」について学んできました。今回の研修を通して、齋藤先生の奥深さに触れ、人間としての厚みを増していきたいと思った。

学習会 「絵本の魅力を引き出す読み聴かせ」

朗読家 見澤淑恵 先生を招き、読み聴かせについて学んだ。絵本の読み手が知っておかなければならないことは、「すべてのページに意味がある」ということ、もちろん表紙にも、裏表紙にも。「絵本は読んでもらうことを前提につくられている」ので、文字のない「絵」のページも、言葉として読み取れるようになっている。『はじめてのおつかい』を例に挙げるならば、裏表紙には「文」はない。お母さんと主人公のみいちゃん、弟が、牛乳を飲んでいて、手当したであろう膝をお母さんの膝の上にのせている絵である。聴き手の子ども達はみいちゃんを自分に重ねているから、おつかいの途中でみいちゃんが転んでしまったら、自分も転んでしまっているのである。だから、転んだ後に痛みはあるのか、手当てしてもらえるのか気になりながら聴いている。裏表紙まで見せなかったら、気になったままで終わってしまうが、裏表紙まで見ることで、手当てしてもらえていて安心できるのである。

どんな会話をしているのかは、読み手と聴き手で想像できる。その「想像力を膨らませるのが 間（ま）」である。子どもは「絵」をよく見ている。絵を見て次の場面はどうなるかな、と想像を楽しみたいのに、考える間がない速い読み方は、「教える読み方」になってしまう。子どもに考えられるだけの「間」を与えることによって「想像力を膨らませる読み方」になる。つまり、「読み手は、聴き手の呼吸に合わせる」ことが大切である。

作品を伝えるのは、言葉だけではなく、「声」や「話し方」も影響が大きい。幼児期は「耳の時代」と言われている。絵本の「言葉」をただ「音」として発するのではなく、「言葉に意味を乗せて」伝えることが大事。表情が豊かだと、表情豊かな声が出る。表情筋を使うと、豊かな中身を相手に伝えることができる。「聴く力は読み聞かせで育つ」とも言われている。

絵本の魅力を引き出す読み聴かせで、子ども達の聴く力、想像する力を育てていきたい。



部会報告

★ 夏 ・乳児部会～7月5日 ・以上児部会～7月12日

★ 冬 ・0・2・4部会～11月22日 ・1・3・5部会～12月6日

夏の部会では、各園新しいクラスになってからの子どもの様子や悩みを中心に話し合い、その中で出た課題を、冬の部会にどんな働きかけをしてどう成長・発達したかを発表することになりました。冬の部会には、それぞれの園が夏に決まった課題に沿って、様子がわかりやすいように写真を使いながら報告をしました。楽しい取り組みの話や、保護者との関わりの難しさ、どんな工夫をして子どもがのびのびと変化したかなど、同じような悩みをもつ保育士の良い学びとなりました。夏からの悩みが解消した園もあれば、引き続き働きかけをしていくという園もありました。

日光・戦場ヶ原～散策

5月17日（金）今までも行っていた、あおぞた・たんぼぼ・野いちご・ひばりはなのわ保育園の5保育園に加え、今年からつくしんぼまつぼっくりの2保育園が新しく参加して7園で新芽が息吹く日光戦場ヶ原に行ってきました。
高い所からゴオーゴオーとすごい勢いで流れ落ちる滝に子どもたちは釘付け、滝のしたに流れる水に触れると冷たく気持ちよかったです。
長く続く木道や 樹の根っこの階段を歩きながら足元に咲く小さな草花や木々の芽吹き、川に泳ぐ魚を見つけたりと驚きの連続。
シラカンバ、カラマツ、谷地坊主、そして壮大な男体山と自然をたっぷりと感じながら4時間ほどの散策を楽しみました。



給食部会

9月20日（金）

乳幼児期の食事は、子供たちの成長発達に繋がるものであることから 改めて給食の大切さを捉え直し、茨城地区でも給食部会を設けて2回目となりました。近年の日本人の食事は欧米化し食卓に魚が並ぶことが少なくなっていることから、部会では 魚料理を中心に子どもたちの大好きな行事食等の調理実習と水産学博士さかな研究家の二平章氏から「魚食が作る脳と体の健康について」の講演を 聞くという取り組みをしました。

魚料理の調理実習では 二平氏から体に良いとされるイワシを使った調理法を学びました。若い調理員たちにとって イワシの三枚おろしは初めての人が殆どで とても勉強になったようです。二平氏の講演では 魚に含まれるDHAは脳の発達を促し 認知症予防にも効果がある、DHAは、魚以外からは殆ど作られることなく、直接摂取できるのは魚だけということや カツオには疲労回復物質が多く含まれているので、鰹節はみそ汁のだしにはとても良いということでした。魚は敬遠しがちだったが今回の実習を機に、調理の工夫次第で美味しく食べられることや魚を食べることの大切さを学ぶことが出来ました。また各園、当日の給食を持ち寄りトレイに並べて見せ合ったり、行事食として もやしやごぼう入りのハンバーグ、チラシ寿司も作り綺麗に盛り付けました。盛り付け方によっても食欲に差が出てくると感じ、ただ作るだけではなく、見た目も考えながら作ることの大切さも実感できました。今回の部会では今までの食生活を見直すきっかけにもなり多くのことを学ぶことが出来ました。

★★ 給食部会の様子です ★★



サウンド・オブ・ミュージック映画鑑賞

2019年9月27日

良い文化に触れる学習会の取り組みとして『サウンド・オブ・ミュージックの鑑賞会を行いました。歌は良く知っているけど、どんな内容のお話なのか、わからないという若い保育士が多く、是非観てみたいという要望からの取り組みとなりました。
だれもが知る名曲の数々に感動し、大きな力をもらいながらもナチスによるオーストリア支配の歴史的な時代背景を垣間見ることができ深い学びとなった学習会でした。

スーホの白い馬

11月6日(水)に8園の年長交流で、“スーホの白い馬”を赤羽末吉さんの原画の映像を見ながら、朗読家の見澤淑恵さんの語りに馬頭琴奏者、嵯峨治彦さんの演奏がバックミュージックで入る大変臨場感のある観劇会を行ないました。
年長の子どもたちは、語りに引き込まれる感じで園に戻ってから、さっそく絵にその感動を描いたりしていました。さらに、嵯峨さんの馬頭琴演奏に合わせて、馬に乗っている気分で、ゆっくり、すごく早く、そして、モンゴルの草原には穴がたくさんあいているので、それをイメージし、急に止まったりし楽しみました。
語り「もけらもけら」に合わせて、その音をみんなで耳で聞いて反復するあそびで、ことばの響きを楽しんだりしました。



森は生きている (2020年1月11日)

良質な児童劇を子どもたちにと、「森は生きている」を見る会として始まった茨城での公演も22回目となりました。主に年長と4歳児さんの親子を中心に組んできて2年に1度の茨城での公演が続いています。

公演では、まるで本物の森の中にいるような錯覚を感じ、ウサギやリスの踊りには笑い声も聞かれたり、荒れ狂う吹雪の中で凍えるみなしごに同化していくようにくると表情を変える子どもたちでした。

心優しいみなしごが困難に立ち向かい12月の精たちに出会い幸せを得る。ただの幸せ物語でなく、自然の移り変わりの中で働く喜びや、しっかりと意志を持ち自立していくみなしごの姿に子どもたち以上に私たち大人も何度見ても感動するものがありました。

また、今年は卒園児が親となって我が子に見せたいと購入したり、20年前親子で観劇したのが祖母・母・孫の3世代と世代を超えて楽しむ姿を見ることが出来ました。それはやはり、当たり前の中の日常にある大切なものを感じさせてくれる「森は生きている」だからこそだと思います。これからも、子どもたちに本物を伝えるため継続して取り組んでいきたいと思っています。



こまおじちゃん

日本文化の伝統を子どもたちに伝えるということで、体験を交えながら、その技を披露してもらいました。今回は各園ごとにこまおじちゃんを呼び、年長だけでなく小さい子どもたちまでおもしろおかしく、驚くような技を食い入るように見ていた子どもたちでした。その技に刺激を受けて、何度も何度も挑戦している年長さんです。

《1月22日～24日・4園の会場にわかれて行いました》

助産師の吉田敦子先生

2019.6.21・2019.11.28

現代女性の身体の現状と胎児期からの乳児の発達を6月と11月の2回の講演をしていただきました。

今の女性の身体の現状とその胎内で育つ胎児の抱える課題など学びました。近年赤ちゃんの身体の緊張などや気になるお子さんが増えてきている中、母体の状態や姿勢が胎内での赤ちゃんに大きく影響していることを学び、また発達には一つ一つ意味があり順を追った発達の大切さや、子どもの抱っこ仕方・寝かせるときの姿勢・マッサージの大切さなど、学び合うことができました。この学びを親たちにも寄り添いながらわかりやすく伝えることが大切だと感じました。

2回の講演で母体の中から定額までの大切にすることなど日々の私たちの保育の大切さも含めみんなで再確認することができました。

＜交流リズム＞

今年も8園の子どもたち137名が交流をしました。「星めぐりの歌」では、歌に出てくる星座を紹介しながら歌いました。



9月の合宿は、過ごしやすい気候でしたのでみんな元気に参加することができました。

今年は恒例のお月見の集いを行い更に宿泊所の企画でプラネタリウムを見せていただきました。

「星めぐりの歌」に沿った星座を見たり、いろいろなお話を聞き楽しい時間を過ごしました。



=== ◆ 新型コロナウイルスの問題の中で ◆ ===

この問題で、2月2回の園長会を開きました。どんどん感染者が増える一方、茨城には感染者の報告がされていないが、2月27日～29日の予定されていた年長最後の交流リズム。合宿と公開リズムは中止としました。

しかし、子どもたちや年長担任にとっては、交流し友だちになった他園の仲間たちと1年間頑張ってきたことを語り合えず、急に断ち切られる感も拭え切れない。卒園をめざしていく気持ちの高まりに結び付きづらいのではと思い、各園ごとに交流保育園にメッセージを出そう！1年間の交流の様子、リズムや歌も入れたスライドショー的にDVDにまとめ公開日に歌おうと決めていた歌も選び、それぞれの卒園式に子どもたちや保護者の皆さんに見ていただこうと現在制作中です。